

11月度自治会たより

和泉中央南ハイツ自治会

令和7年11月1日

連合自治会関係

- 1 リチウムイオン電池の収集開始について
従来、リチウムイオン電池は販売業者に引き取ってもらっていましたが、他の乾電池と一緒に袋に入れて出せるようになりました。12月より
- 2 年末年始の資源とゴミ回収について
12月31日（水）～1月4日（日）まで、収集はお休みです。ポスターを掲示しますので、ご覧ください。
- 3 住宅用火災警報器の抽選配布について
泉区内の70才以上の方がお住いの住宅。11月30日まで申込み
- 4 民生委員・児童委員、主任児童委員 一斉改選が行われます。
- 5 身寄りのない高齢者等への支援について
「緊急連絡先」や「エンディングノート」の保管場所などの情報を、事前に、市に登録できる「情報登録事業を今秋から始めます。
対象：市内在住の65歳以上の方
- 6 令和7年度共同募金運動の実施について
14,253円納金いたしました。募金のご協力、ありがとうございました。
- 7 連合自治会ふるさと祭り 11月30日開催
- 8 泉区民ふれあい祭り（区民文化祭）のポスター掲示について 11月3日
緑の協会でテントを出しております。33番 坂を下りてすぐのところ。
- 9 「地域の防犯力向上緊急補助金」の申請期間延長について
自治会では、パトロール・防犯訓練用ブルゾンの追加注文で進んでおります。

自治会関係

1) 10月11日（土）ふれあい祭りが無事に終了できました。特にサンマの焼き物にも人気があったようです。



2) また12日の連合自治会のスポフェスも、全体では400名の参加があったとのこと。2日間連続での参加、ありがとうございました。

- 1月30日の連合ふるさと祭り（地蔵原）には多数の参加をお待ちしております。
- 2）国勢調査へのご協力、有りがとうございました。今度は5年後です。
- 3）振り込め詐欺 泉区8月末現在 39件 2億3千万円、ご注意を。

今後の日程

日 付		行事内容	備 考	開催時間
毎週木曜日		防火防犯パトロール		19:30
11月 3日	月	区民まつり	8:00	19:30
11月 9日	日	第三公園清掃		9:00
11月15日	土	農業まつり		
11月16日	日	農業まつり		
11月16日	日	中和田中学校防災訓練		9:20
11月17日	月	移動販売会議		
11月20日	木	泉区シニアバス旅行		
11月30日	日	連合ふるさとまつり		9:00
12月 3日	水	役員会		19:30
12月 6日	日	定例会 資料配布のみ		15:00

編集後記

タウンニュースや神奈川新聞に紹介されたように、横浜市より「防災力向上マンション」の最高峰の認定書と金の盾をいただきました。これは南ハイツがどの角度から見ても安全・安心なマンションであるとお墨付きをいただいたものです。神奈川新聞では1ページを使った「減災新聞」に取り上げられました。



南ハイツは今回ハードとソフト、両面のプラス認定を受けた。これは認定開始以降、市内では4例目。安否確認用の「救助を求む」「無事です」が両面に印刷されているため、1枚で自分の状況を伝えることができる。これも高い評価を受けました。

今後も管理組合と自治会とは、車の両輪のごとく、お互いに助け合いながら、南ハイツを安心・安全な街づくりに邁進していきたいと願うものです。ご協力に感謝申し上げます。

文責 会長 佐藤 茂

和泉中央南ハイツ 「防災力」高め市から認定

市内で4例目の最高認定

泉区の「和泉中央南ハイツ」(1974年竣工・184戸)がこのほど、備蓄や適切な防災設備の配置など災害対策が充分として市から「よこはま防災力向上マンション」に認定された。

同制度は災害に強いマンションづくりと周辺地域の防災力向上を目的に2022年からはじまっ



認証の盾を持つ佐藤さん(前列左)と災害対策本部のメンバーら

たもの。認定基準は防災マニュアルの策定や飲料水等の備蓄が行われているかの「ソフト」、浸水対策や耐震性が確保されているかの「ハード」に分けられ、地域連携も行われていると「プラス」の評価を受ける。

同マンションは今回、ハードとソフト両方のプラス認定を受けた。これは認定開始以降、市内では4例目。和泉中央南ハイツ自治会会長の佐藤茂さんは「知らせを聞いて驚いた。努力が実を結んだ」と話す。

マニュアルなど作成
同マンションで

は、2006年から「災害対策本部」を設置。佐藤さんは設置当時から総務として関わってきたという。認定は市に送る資料や現地調査をもに行われ「特にソフト認定に関わる『防災マニュアル』の作成に時間がかかった」と佐藤さん。「発災時に住民がどう動くのかを本部のメンバーで綿密に検討した」という。

また認定を受けるにあたり窓に掲げられる安否確認用のカードを作成。「救助求む」「無事です」が両面に印刷されているため、1枚で自分の状況を伝えることができる。

同認定は2年ごとの更新制だが、佐藤さんは「次回も同ランクの認定を受けられるよう努力を続けます」と意気込む。

2025年(令和7年)10月5日 日曜日

きょうの紙面



高齢化進む団地 地震への備え注力 15
入居から半世紀を迎えた横浜市内の団地が「防災力向上マンション」に認定された。居住者の高齢化も踏まえ、地震への備えに力を入れている。

減災新聞

関東大震災から100年以上が経過し、次の大規模地震が警戒されています。気象災害のリスクは日常化し、火山噴火も懸念されています。毎月第1・3日曜の「減災新聞」では、多様な視点で備えの在り方を探ります。情報はメール(gensai@kanagawa-np.co.jp)でお寄せください。

第705号

共助の力で「防災団地」



和泉中央南ハイツの防災倉庫に保管されている手作りの折り畳みテーブル。災害時にすぐに使えるグッズをほかにも用意している

横浜・和泉中央南ハイツ

1970年代半ばに建てられ、入居から半世紀を迎えた「和泉中央南ハイツ」(横浜市区、184戸)が8月、「よこはま防災力向上マンション」に仲間入りした。エレベーターのない4、5階建ての分譲団地で、市がこれまで同マンションに認定した物件の中で最も古い。居住者の高齢化を踏まえた対策を策定し、首都直下地震や南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、居住者同士はもちろんで、周辺自治会との連携にも力を入れ、その時に備えている。

「寝室には就寝中に倒れてくる可能性がある。背の高い家具を配置しないようにします」「日頃利用している食料品や生活必需品を少し多めに購入しておく」「日常備蓄」なら簡単に備蓄ができます。同ハイツの自主防災委員会が今年4月にまとめた防災マニュアルでは、大規模地震を念頭に置いた自助を居住者に促す。水や食料、簡易トイレの備蓄を求める一方、「各家庭・個人の力だけで災害に立ち向かうには限界」がある。指摘。災害時には居住者が助け合う必要性を挙げ、日常的な関係作りにつながる自治会主催の祭りや訓練などへの積極的な参加を呼びかけている。近隣自治会との連携も重視し、敷地内に設置している防災倉庫を共用できるようにした。

築50年、地震へ備え

東日本大震災後の2013年に設置した大型の備蓄倉庫に、板材や缶を使った手作りのトイレ、折り畳み式のリヤカーなど、使い勝手を考慮した資機材を備える。エレベーターがなく、狭い階段を挟んだ資機材を備える。エレベーターがなく、狭い階段を挟んだ資機材を備える。エレベーターがなく、狭い階段を挟んだ資機材を備える。

「和泉町団地」と呼ばれていた。完成は1974年で、81年以前の旧耐震基準で建てられた物件だが、耐震診断は実施済みで必要な強度は確保されている。起伏の少ない地域に立地し、敷地にはゆとりがある。

で各階の住戸が向き合っているため、搬送時の自由度が高い布製の担架を用意。同ハイツ自治会の佐藤茂会長(78)によると、「一般的な担架では階段を曲がらず、上階で負傷した人を運べない」という構造上の課題を考慮したものだ。大地震発生後に各住戸の窓に掲げてもう一つ安否確認用のカードは「救助求む」と「無事です」を1枚にまとめ、表と裏で使い分けられるようにした。単身の高齢者が増える中、共助の負担を減らす工夫の1つという。



⑨安否確認用のカード。居住者に協力を呼びかけ、負担を減らす工夫も⑩物件や立地環境の特徴を踏まえ、地震への備えに力を入れている和泉中央南ハイツ

和泉中央南ハイツ